

子どもたちにとって良い給食とは！ 市民参加で考えよう！

市は現在「羽村市小中学校学校給食検討委員会」を設置し検討しています

羽村市・瑞穂町の学校給食は、現在給食センターで毎日8600食(羽村市が5300食)が作られ、第1給食センターは35年、第2センターは28年が経過しています。そのため市は「老朽化が見え始めており、将来的には大規模修理や建替等を行う必要がある」との考えを示し、現在、学校給食のあり方や給食費の徴収方法等について、学校長、PTA、町内会、市民の代表で意見の交換を行い一つの方向性を示すとしています。さらに、この検討委員会の結果を教育委員会で尊重し、瑞穂町や学校給食組合と十分な協議をはかっていくとの考えを6月議会(市川えい子議員の一般質問)でしています。

一部の関係者だけで検討すべきではありません

市は全市民対象の「学校給食を考える会(仮称)」の立ち上げをすべきです

戦後のこれまでの学校給食はともかく栄養の量を満足させなければならないとして、どうしても、手に入る材料で手取り早く作ったものを食べさせることがテーマだった時代が長くありました。「栄養をまかなう」ことが現在達成された今、今後、学校給食がなにをテーマにすべきかを「食育基本法」の成立とあわせ、方向性を見いだしていく必要があると思います。そのためには市が「参画と協働」を推進していく自治体として学校給食に関心のある全市民対象で方向性を模索すべきです。

社会構造の変化が子どもたちの「食」に影響を及ぼしています。市は、「今の時代子どもたちにとって良い給食とは？」というテーマでみんなで考える場や、広く意見を聞く場をつくるべきではないでしょうか。

住民税増税 怒りの声・問い合わせが市に392件

(6月11日から17日まで・税源移譲関係とその他合わせて)市へ、「こんなに上がって払えない」という声が寄せられています。

日本共産党は増税分を「戻し税」方式で国民に返せと要求
定率減税の全廃をきめた自民党・公明党の責任は重大です



2007年6月24日 853
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷

日本共産党羽村市議団のホームページ
<http://www.jcphamura.org>
事務所 電話579-2132 FAX579-2106

給食は子どもの権利・発達保障の視点から

安全な食材を選ぶ。 地元産の食材・無添加・無農薬・低農薬・有機栽培を使用する。抗生物質・化学肥料・遺伝子組み換え肥料を使用していない魚・肉の使用。安全な食器を使用する。 有害物質が溶出されない食器の使用。ステンレス・陶器・磁器・木製など。

安全な調理をするため。 豊かな経験と専門性・調理員と栄養士の協力・調理後から食べるまでの時間短縮・アレルギー対応・安全な調理施設と人員の配置
学校給食は義務教育の一環であるので安定した運営でなければなりません。また、直営・外部委託に係わらず、学校 給食の設置者は自治体ですから公共サービスとしての安定運営が求められます。

栄養価に優れていること。栄養士・調理員・事務方・現場教員の密接な連携。冷凍食品や加工食品に頼らない。

地域と共に。 地産地消・地域の伝統食・特産物の活用

.....
●日本共産党は羽村の小・中学校給食は、センター方式でなく、より安全・安心の直営自校方式(各学校で調理し運営は市が行う)で実施をすべきと考えています。
.....



ヒナに餌を与えるツバメ

羽村市小中学校給食検討委員会はすでに一回目が開かれており、二回目は6月26日午後7時～開催されます。

無料法律相談のお知らせ

7月10日(火) 午後1時30分から
予約が必要です。弁護士が相談に応じます。